

営などの)の四点に分類されるが、それぞれについて今後とも拡充していく方針である。

「②タケダグループとしての環境への取り組み」については、一九九二年に制定した「環境に関する基本原則」に則り、具体的な中期計画としてレスポンシブル・ケア活動<sup>(注)</sup>を推進し、さらに毎年度、環境方針を策定するなど、環境保全活動を積極的に推進してきた。今後は、国内外の関連会社を含めた管理体制の構築を目指していく。

「③取引先との関係」については、従来より、「購買業務要領」を定め、関係業務にかかわる全ての従業員への徹底を図ってきた。タケダイズムに則った誠実な購買活動をさらに推進するため、二〇〇五年、CSRに配慮した「購買基本方針」を策定した。

### 図 経営の基本精神

わたしたちタケダグループの従業員は、いかなる場面においても、常に誠実であることを旨とします。

誠実とは、何事にも高い倫理観をもって、公正・正直に取り組む基本姿勢と、より良き姿を追求し続ける不屈の精神をいいます。この実践を通じて、わたしたちを取り巻くあらゆる人々との間に強い信頼関係を築き、事業を発展させていくと同時に、タケダの“経営理念”である『優れた医薬品の創出を通じて人々の健康と医療の未来に貢献する』を世界で実現していくことを目指します。

#### 《経営理念》

「優れた医薬品の創出を通じて人々の健康と医療の未来に貢献する」

#### 《経営方針》

- ① 研究開発型国際企業として独自の強みを武器に世界をリードする会社
- ② 高度に統合されたグローバル体制を有する会社
- ③ 優れた製品とサービスを通じて世界の人々に満足を提供する会社
- ④ 株主をはじめとするステークホルダーとともに発展する会社
- ⑤ 世界の優れた人材を引きつけ、活力にあふれる会社

#### 《行動原則》

- ① 生命の尊厳に対する畏敬の念と高い倫理観
- ② 事業の本質、自らの存在価値のたゆまぬ追求
- ③ 自己責任の完遂に立脚した強固な連携
- ④ フェアで誠実に接する心と相互の信頼
- ⑤ 絶えざる自己革新と、スピード・効率の追求

「④従業員にとって働きやすい環境の整備」については、従来より、「仕事を通じた達成感によってやりがいを感じ、成果を追求する会社」を人事ビジョンに掲げて、チャレンジ精神溢れる企業風土を醸成してきた。今後は、グローバル化に対応しうる、高い倫理観と専門性を持つ「プロフェッショナル」を育成するため、教育研修制度をさらに充実させていきたい。また、さまざまな価値観を持ち、多種多様な才能を有する世界の従業員が仕事に全力投球できるようにサポートする制度や仕組みを構築していく。

### グループ企業への浸透

タケダでは、先にCSR推進委員会を設置し、施策を立案、実施してきた。これを更に

強化・徹底するため、二〇〇六年より開始される新しい中期計画の中では、国内外のグループ企業各社に、タケダイズム／CSRを浸透させ、推進していくことを、戦略的な課題として位置づけている。

そのため、CSRに関わる諸課題を、専門的に分析し施策を立案、機動的に遂行していく機能が望まれている。現在、具体的な取り組みについては検討を深めている段階であるが、この専門的、機動的取り組みを通じ、タケダイズム／CSRを、グループ全体に浸透させることにより、「全社・全員活動」としてのCSR活動を展開し、ステークホルダーとの間にさらに強い信頼関係を構築していきたい。

(注)レスポンシブル・ケア：事業者による化学物質の管理に関する国際的な自主管理活動

# タケダイズムに息づくCSR

武田薬品工業取締役コーポレート・コミュニケーション部長

吉田豊次

よしだ とよじ



## 「経営の基本精神」とCSR

タケダは、二二〇年を超える長い歴史の中で、生命関連事業を営む企業として、人々の生命や健康を見つめ、社会に貢献するという「強い使命感」と「高い倫理観」を培ってきた。そのため、CSRという発想は、私たちのDNAの中にしっかりと組み込まれており、決して目新しいものとは考えていない。

タケダには、タケダイズム、経営理念、経営方針、行動原則からなる「経営の基本精神」〔図参照〕が存在し、CSRの基本理念は、その体系にしっかりと織り込まれている。そのため、タケダでは、タケダイズムをはじめとする「経営の基本精神」の実践がCSRであると捉えている。「経営の基本精神」の中でも、最上位に位置するのがタケダイズムである。これは全ての従業員に、常に誠実であることを旨とし、何事にも高い倫理観をもって取り組み、不屈の精神を持ってより良き姿を

追求しつづけること、そして、経営理念、「優れた医薬品の創出を通じて人々の健康と医療の未来に貢献する」の実現に向けて尽力することを求めている。

タケダは、これまでも「経営の基本精神」をふまえ、経済・環境・社会など、CSRを構成するさまざまな課題について積極的に取り組んできたが、グローバル化の進展に伴い、社会で果たすべき役割が大きくなりつつあることを認識し「新しい仕組み」の構築に着手した。

二〇〇五年二月、社長を委員長、CC（コーポレート・コミュニケーション）部を事務局とし、各部門の部門長から構成されるCSR推進委員会を発足させた。目的は、CSRに関する取り組みを全社横断的に整理し、タケダの特色を活かした方針を立案し、グループ全体に浸透させることである。本委員会では、タケダのこれまでの活動を整理し、今後、さらに充実させるべき課題を抽出し、施策を

立案した。さらに、本委員会のもとにプロジェクトチームを発足させ、二〇〇五年十二月、タケダとしては初めてになる「CSR報告書二〇〇五」を発行した。

## 四つの課題

CSR推進委員会で抽出された、今後タケダとして力を入れていくべき四つの課題は以下である。①社会との関係のあり方、②タケダグループとしての環境への取り組み、③取引先との関係、④従業員にとって働きやすい環境の整備。以下、簡単に現状と今後の方向性を紹介する。

「①社会との関係のあり方」については、従来より、「経営の基本精神」に則り、ステークホルダーの期待にこたえるべく、社会貢献活動等を推進してきた。対象分野は、大きく分けて、科学技術の振興、「健康と心豊かな社会」に向けた取り組み、地域コミュニケーションへの貢献、遺徳の継承（財団、史料館等の運